

大津市立瀬田中学校 末松清美

## 1・活用の概要

今年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、入院してくる生徒が増えてきました。治療が厳しい生徒や体調不良の生徒は、院内学級ですら来られないことも多い状況です。また、瀬田中学校においても行事の緩和されるものの、インフルエンザの流行やコロナの罹患もありますが、状況によって実施可能な教育活動や行事を進めていきました。

今年度取り組んだことは

- (1)大学の授業に参加
- (2)All English の授業
- (3)滋賀医大生との交流

院内学級での時間は、入院治療が中心なので、楽しめる時間は少ないですが、だからこそ、心に残る取り組みを心がけました。

## 2・取り組みの状況及び成果

### (1)大学の授業に参加

体調を見ながら 中学生が参加しました。

①実施日・・・7/10・神戸松蔭女子学院大学・9/5 龍谷大学

②内容・・・自己紹介や好きな食べ物・色・スポーツ・教科・こんな人になりたい・院内学級の感想などを大学生と交流しました。

- ・病院での嫌なこと
- ・早く家に帰りやりたいこと。食べたいもの。
- ・治療の困難さ

幼い感じの子どもたちだったので、素直にいっぱい話していました。病気のこと、その不安。これからの治療などです。そのことが、かえて、実情を伝えていたようで、お見舞いのお手紙を頂戴しました。

\*交流の中で、「ぼく、話すのが好きです。楽しかったです。」と言い上手に話せることで、「自分は話せるのが上手だ」と自分に自信を付ける生徒もいました。

### (2) All English の授業

①実施日・・・5/17 22 31 6/7 21 7/5 でした。電波不良でつながりにくかったです。

②内容…授業内容に即した英会話の授業を、担当の先生が作成しました。

- ・What day is it today?
- ・what`s the day?
- ・How`s the weather?
- ・What time is it?

中学生も「英語が話せることで、普段の英語も楽しくなってきました」とつぶやいています。長い間、治療で学級での授業に来られなかったため、英語を全く忘れてしまいました。治療を続けるなかで、綴りがなかなか書けず、困っていましたが、発音など、ひどい忘れ方でした。1番好きだった英語の、しかも、得意だった単語の意味や綴りが出てこないことに対して、本人は相当ショックでした。

そんなとき、ORIHIME ロボットで、瀬田中学校のALT と話し、コミュニケーションする機会を持ちました。簡単な会話から始めると、もともと、大好きだった英語を少しずつ思い出して、読むこと、書くことなど、英語の力を取り戻し、かなり書くこともできるようになりました。また、それに伴って、長文を読む方法を知りたいと担当の先生に申し出て、やり方を習い、長文問題を練習しました。

今年度はALTの先生に来ていただき、コミュニケーションやゲームをしてもらいました。

次年度はほかのやり方も検討したいと思います。

### (3) 滋賀医大との交流

大学の学生課に紹介していただき、「ぬいぐるみ病院研究会」の学生さんと出会い、打ち合わせを持ちました。大学生の授業が忙しいこと。ORIHIME の接続が課題でした。

学生さんとは3回予定のうち2回は行いました。12時50分～13時10分くらい。内容は自己紹介、好きな色、食べ物など。なかなか、繋がらず、音も聞こえにくかったです。

しかし、病院内の子どもたちの様子を理解してもらえたようでした。

## 3・課題

- ① 学校の行事が復帰しているため参加や双方の向交流に工夫が必要でした。
- ② 双方向の交流する相手を広げていくことは大切です。
- ③ 継続していくために必要な予算の確保、もしくは、代替の通信方法を検討することが肝要です。

## 4・感想

ORIHIME ロボットを使って、子どもたちが、信頼できる方たちと話すことを通して、自分の得意なことをあらためて発見し、本来持っていた力を取り戻すことができる。さらに、自分を伸ばしてあげたことに、教員も感動しました。

また、愛嬌のある身振り手振りで表現してくれることで、子どもたちの言葉に出せない思いや願いを表現していただけることに、微笑むことができます。

## 5.ORIHIME ロボット活用を通して

### (1)いきさつ

院内学級を担当して1年がたったころに、「子どもたちが頑張っているけど、5教科以外の実技教科は、前籍校では、きちんと評価してもらえない。どうしたら、実技教科も評価できるのか？」という疑問や疑念が浮かびました。

そこで、院内学級の設立についてご依頼をいただき、病院内の子どもたちのためにボランティア活動をされている中川さんに相談しました。また、学校長にも相談しました。

中川さんから院内学級の野洲養護学校の青木先生をご紹介いただき、全国病弱教育研究大会に参加のお誘いをいただきました。大阪で行われていた全国病弱教育研究大会に参加しました。そこで、分科会の後、青木先生から神戸松蔭女子学院大学の谷川弘治先生をご紹介いただき、クラスの現状と私の願いを伝えました。

### (2)ORIHIME ロボット

「院内学級で9教科の授業をされている学校があること・本校で院内学級の授業を毎朝報告すること(院内学級の

存在を周知してもらうこと)・ORIHIME ロボットの活用をする。」などを提案くださいました。本校で院内学級の授業を毎朝報告することは 1 日だけ、実施しましたが、院内学級が存在を周知してもらうことは職員会議で現状を報告しています。

- ① All English の授業
- ② 大学の授業に参加(神戸松蔭女子学院大学、龍谷大学)
- ③ お散歩 神戸北野散策 公園散策
- ④ 本校との交流 文化祭での交流 調理実習拝見
- ⑤ 滋賀医大生との交流

長期入院のこどもたちにとって、学習はもちろんちょっとした作業や物づくりなど、現在の院内学級は本校と少々連携を取りながら、子どもたちの QOL を高めることにつながります。

ORIHIME ロボット活用は、子どもたちにとっても学校にとっても「連携」のツールでありました。谷川弘治先生には院内学級の創設のための請願運動から、立ち上げまで、さらに学級経営までご支援いただきました。ORIHIME ロボット活用は院内学級の子どもたちの活動を広げを理解してもらうことでした。お貸しくださった谷川先生に心から感謝申し上げます。